



新婚夫婦を琵琶の演奏でお祝い

地域おこし協力隊 岩下小太郎隊員

町では、婚姻届を提出した夫婦へ肥後琵琶の演奏や婚姻記念証をプレゼントしています。この取り組みは、地域おこし協力隊の岩下小太郎隊員(関町)が「肥後琵琶の良さをたくさんの人々に知ってもらいたい」という思いで発案しました。

6月5日、この日婚姻届を提出した齋田さん夫婦(肥猪)へ、岩下隊員は自身が作詞作曲した「南関婚姻祝い唄」を披露。情感たっぷりの肥後琵琶の演奏で二人の門出を祝福しました。また、トップ丸もサプライズでお祝いに駆け付けました。

祝福をうけた齋田さん夫婦は「貴重な機会をもらえて嬉しい。たくさん的人々に聴いてもらえるよう肥後琵琶の伝統を引き継いでほしい。」と嬉しそうに話しました。



立派なお米が稔りますように

三小5年生が田植え体験

第三小学校(太田勝広校長)の5年生18人が6月10日、同校近くの水田で田植えを行いました。

この日は、相谷区の人々や、保護者でもある学校運営協議会委員である福山正英さん(相谷)が講師となり、児童に稲の植え方を教えました。児童は、ぬかるむ田んぼに苦戦しながらも夢中で一本一本丁寧に苗を植えました。

田植えを体験した福山英輝さん(相谷)は「田んぼはドロドロしていて大変だったけど楽しかった。収穫祭がとても楽しみ」と笑顔で話しました。

南関町庁舎等建設現場レポート

第3弾

現在、令和3年12月末の新庁舎完成、1月からの供用開始に向け、南関町庁舎等建設工事を行っています。

町ホームページにも工事の進捗状況と、5月22日に行った現場見学会の模様を動画で公開していますので是非ご覧ください。



台所のオジャマ虫を撃退

町地域婦人会がホウ酸団子づくり

町地域婦人会(熊谷喜代子会長)は6月7日、町の衛生環境改善のため、ホウ酸団子づくりを町公民館で行い会員14人が参加しました。

ホウ酸団子は大量の玉ねぎをフードプロセッサーでペースト状にしてホウ酸粉末、砂糖、小麦粉を材料に、ペットボトルのキャップに入れて乾かして作ります。

会員たちは、玉ねぎの強烈な刺激に涙を流しながらも手際よく作業を進めました。

市販のものより安全なものを使おうという思いで作られたこのホウ酸団子は、町内調理施設がある施設にも配布されました。

熊谷会長は「町の衛生環境改善のためにこの活動は続けていきたい」と話しました。



▶ 岩下小太郎隊員(左)

未来の有権者としての意識を

第二小学校6年生が選挙を学ぶ

子どもたちに選挙や政治への関心を高めてもらおうと、第二小学校(隈部孝二校長)で5月18日、選挙出前授業が行われました。

県と町の選挙管理委員会4人を講師に招き、6年生11人は「選挙を学ぶ～大人になつたら選挙に行くために～」をテーマに、選挙の歴史や制度、選挙に行かないどうなるのかなどを学びました。

また、投票体験も行われ、講師3人が立候補者となり、公約を発表。児童は記載台で名前を記入した投票用紙を投票箱に入れました。

山本愛琉さん(宮尾)は「投票は緊張したけど、こんな感じなどと分かった。次の選挙では親と一緒に投票所に行ってみたい」と笑顔で話しました。



▶ 見学会の様子
ピヨティ前



12月の完成に心躍らせる

町新庁舎現場見学会

令和3年12月末の完成に向けて工事が進む南関町新庁舎の現場見学会が5月22日に行われ、事前に応募された住民46名が参加しました。

当日は施工業者や設計事務所が案内。現在の全体的な進捗状況は約45%(当時)と順調であり、増築棟は骨組みが完成し、夏ごろには外装工事に着手すると説明がありました。

また、増築棟入り口部分には熊本県産のすき・ひのきを利用するなど味わいのあるこだわった造りとなっています。

参加した男性は「分散している機能が集まるのでとてもいいことだと思う。住民が利用しやすいものになれば」と話しました。



瑞宝双光章を受章

米田正盛さん

瑞宝双光章を受章した米田正盛さん(小原)が5月28日、佐藤町長を表敬訪問しました。

米田さんは南関高校を卒業後、昭和42年から約40年間にわたり福岡県警察に勤務。久留米市や大牟田市、福岡市を中心に機動隊として多くの市民の平穏な生活を守りました。

米田さんは、受章に対し「たまがった」と驚きの表情。また、「この仕事が好きでないとなかなかできない。大変なことも数多く経験したが今となってはいい思い出。上司や周りの人に恵まれて幸せだった」と当時のことを思い浮かべ、懐かしそうに話しました。



▶ 受章した米田さん(左)

次の世代へ 命の貯金を

山の元自然学校 林田弘治さん

南関町の林田弘治さん(長山)が代表を務める山の元自然学校では、50年に渡る里山保全活動の軌跡を写真によって綴っています。

山の元自然学校には、美しい自然の景観や澄んだ空気、野鳥の歌声を肌で感じ、みんなが自然の癒しを求めて集まれるような場所を作りたい、という思いが込められています。

林田さんは「森や棚田の保全を続けることで、水や酸素、多種多様な生き物を次代にも残していきたい。また、自然学校に足を運び、自然の素晴らしさや森林の現状を知つてもらい、自然に関心を持つきっかけになってほしい」と話しました。